

## 大阪・関西万博に向けたグローバルオープンイノベーション拠点の構築

ATRの主導により、約4年半前から構築を開始したけいはんな学研都市におけるグローバルイノベーションエコシステムは、イスラエル、インド、ニューヨーク、カナダ、バルセロナにおける公的・民間の主要イノベーション機関との連携を中核とし、海外23ヶ国の221機関を含む600を超える機関との広範かつ強固なネットワークへと成長を遂げています（本年9月末現在）。本ネットワークは、けいはんな学研都市におけるグローバルイノベーションエコシステムの構築に加え、ATRが実施中のスタートアップ支援プログラム（アクセラレーションプログラム：KGAP+）および事業化創出支援プログラム（KOSAINNおよびKOSAINN+）等の具体的なオープンイノベーション活動の礎になっています。

特にKGAP+を中心としたスタートアップ支援プログラムにおいては、①参加国内スタートアップ84社の内、59社（70%）が京阪神に所在、②共催・協力機関の内、62%が京阪神関連機関、③メンターの66%が京阪神関連機関の所属者等の特徴を有し、昨年7月に内閣府によってスタートアップ・エコシステム拠点都市のグローバル拠点都市として選定された「大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム」を構成する京都、大阪、ひょうご神戸の各エコシステムを連携する活動となっています。

また、事業化創出支援プログラムKOSAINN+においては、日本企業の課題解決に資するだけでなく、最近では地域創生の取り組みへと広がっています。

これらの活動では、地域住民参加による実証実験が広く実施されており、「人間中心のスマートシティ」、「住民参加型 PoC-friendly 都市」というけいはんな学研都市のブランディングにも貢献しています。

開催が4年後に迫った大阪・関西万博では、科学技術やイノベーションへの期待やその果たすべき役割には大きなものがあります。ATRは、けいはんな学研都市の各機関とも連携しながら、これまでの実績を最大限に活用し、「理想としたい未来社会の共創」、「実証・実装したい未来社会のトライアル・提案」へとつなげていきます。